
ぼくにまかせて

河 美子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくにまかせて

【Nコード】

N9746H

【作者名】

河 美子

【あらすじ】

4人家族の長男は、がんばってママのお手伝いをしているよ。パパ、安心して。

ぼくの家は4人家族だよ。パパとママとぼくと弟のこうちゃん。

ぼくは3才。こうちゃん1才。

今日はお休みの日。だけど、パパはさっきからぼくの口にゆびをあてて

「しゃべっちゃだめだよ」

というんだ。小さな声で。ふとんからこっそり出ようとしたパパの足をママがつかんだ。

「ぎゃっ、びつくりさせるなよ。」

とパパが大声を出す。意味ないじゃん。

「パパ、どこに行くの。この二人の槍をもった天使を置いて。」

「ママ、今日はだいじなゴルフのお誘いなんだ。」

「あら、そっなの。」

ママは信じていないようだよ。ぼくは、ママに

「だいじょうぶ、こうちゃんはぼくが見てあげてるから。」

「ママはそれがこわいの。」

パパはわらいながら、起きて準備をし始めた。いやなんだけど、
て言ったのにパパは歌が出てる。うれしそう。

「うえーん」

こつちゃん、早速お目覚め。ママはミルクの用意。ぼくは紙おむ
つの用意。ウエットティッシュも持ってくるよ。

泣いたとき、こつちゃんが体をぶるつとさせたら、おしっこが出
てるよ。ぼくはこつちゃんにキスをするよ。

かわいいんだ、こつちゃん。パパはこっそり出て行ったよ。ぼく
は後ろから、

「パパ、おみやげ買ってきて。」

って言ったら、よしよしと胸をたたいて車に乗ったんだ。

ママは台所で、ミルクをさましてる。こつちゃんはぼくが見てて
あげなきや。

「けんちゃん、こつちゃんなにしてるー。」

って、下からママが言うから

「いま、こつちゃんのおててふんでるー。」

って言ったよ。ハイハイして危ないでしょ。だから、止めたの、ぼ
くが。すると、ママが叫びながら上がってきたよ。

「けんちゃん、おててふまないの。こつちゃん、あら喜んでるの。」
「そつだよ、こつちゃん、ぼくのこと好きなんだから。こつちゃん、
声を出して喜んでるよ。」

お昼になったよ。ママはお友だちと電話が長い。こつちゃんお昼
寝。

「そつだ、いいこと考えた。」

ママをおどろかしてあげよう。こんなこともできたよ。

「ママ、見て。ぼく散髪できた。ほら」

「きゃーっ、右だけはげてる。けんちゃん、どうしよう。」

ママはぼくを横だきにして、床屋へ連れて行ったよ。

「どうにかしてください、この子の頭。」

おじさんは、笑いながら、

「どうにもならないよ。坊主頭しか。」

夜、パパはぼくの頭を見て、死ぬほど笑ったよ。ママは疲れたっ
て言ったけど、どうしてだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9746h/>

ぼくにまかせて

2010年10月20日15時07分発行